

インターホン玄関子機へのディスプレイ搭載の試み<2>

—小学生に対する印象評価実験—

080245064 大山亜希子
川澄研究室

1. はじめに

一般家庭用のインターホンは室内側に画面の付いたテレビドアホンという商品が市場に出回っている。先行研究では、玄関側の子機にも画面を付けることにより、インターホンの利用可能性や拡張性を検討してきた。今回は、子どもがおとなとは異なる感受性を持っている[1][2]ことに注目し、子どもを対象とした調査を行なう。

2. 目的

先行研究で開発した5種類の利用スタイルにおいて小学生を対象とした印象評価実験を行い、これまでに得られている20~80代の結果と比較しながら、年代による特性の違いを考察する。

3. 実験方法

3.1 実験ツール

Apple社製のiPadを室内親機、iPhoneを室内子機に見立て、新しい対話のアイデアをiOS SDKを用いて実装した。

3.2 5種類の利用スタイル

訪問者と居住者の対話開始から終了までの間、子機のディスプレイに図1のような画像や映像を表示する。



図1 5種類の利用スタイル

また本実験では子どもを対象としているため、お菓子やゲームなど子どもにとって馴染みのある広告を表示する工夫をした。

3.3 小学生の印象評価実験

小学生を学年別のグループに分け、利用スタイル毎に『新しさ感』『役立ち感』『好感度』の3つを大・中・小の3段階で定量評価してもらい、感想や意見などをヒアリングする。今回は、名古屋市名東区の猪高学童保育所に通う1~6年生28名にご協力いただいた。実施日は2011年08月22日である。



1. 体験する 2. 評価する・記録する

図2 実験風景

4. 実験結果

キャラクタ表示は、子どもに親しみやすいという面から全体的に小学生の評価が高く(図3)、また、音量表示は実際に声を出して体験する楽しさから小学生の評価が高い(図4)などの傾向が明らかになった。

また、「キャラクタがしゃべっているようにふきだしを付けたらよさそう」、「広告はアニメにし、3D表示にしたら面白そう」など、小学生ならではの意見を得ることができた。

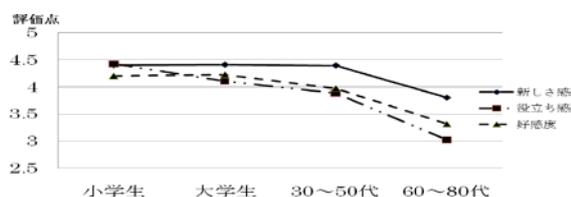


図3 キャラクタ表示の評価結果

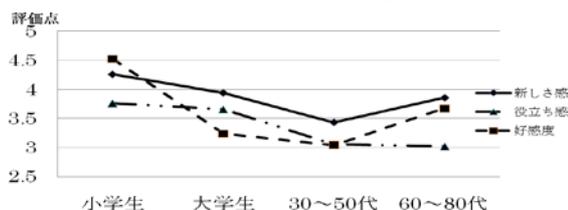


図4 音量表示の評価結果

5. まとめ

先行研究で検討したインターホン玄関子機へのディスプレイ搭載の可能性について、小学生を対象に印象評価実験を行った。その結果、20~80代よりも高い傾向が分かった。

参考文献

- [1]嵯峨田良江, 他: 「幼児を対象としたユーザーインタフェースデザインについて」, 信学技報告, 49-54, (1998)
- [2]矢入郁子, 他: 「障害者・高齢者・幼児の利用に配慮したテーブル型バリアフリー情報端末」, 情処学会研究報告 HI 研究会報告, 7-14, (2005)